様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年5月27日現在

機関番号：１５５０１
研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2010～2012
課題番号： 22520138
研究課題名（和文） 地域活性化のための美術連携事業の調査研究
研究課題名（英文） A Research on Social Activities of the Art Institutions for revitalization in regional towns and cities.
研究代表者
中野 良寿 (NAKANO YOSHIHISA)
山口大学・教育学部・准教授
研究者番号： 30335781

研究成果の概要（和文）：本研究は地方都市における文化施設や教育機関等が相互に美術による地域連携を行ない、その地域の活性化に寄与するための方法論や実践例の調査研究を行ったものである。また、そのモデル案も構想するものである。この目的に従い国内外の事例研究としてカナダ、イギリス、金沢、東京、直島などを訪ね各地域における実践例を考察した。その結果、地域連携の方法として環境に関する観点と芸術政策を連携させたプロジェクトなどの今日的なモデルを提案した。

研究成果の概要（英文）：Cultural facilities, educational facilities, etc. in a local city perform inter-regional association by fine arts mutually, and this research performs the methodology for contributing to activation of the area, and surveillance study of the example of practice. Moreover, it conceives also of the model proposal. According to this purpose, the researchers visited Canada, Britain, Kanazawa, Tokyo, Naoshima, etc. as a case study in and outside the country, and considered the example of practice in each area. As a result, contemporary models, such as a project which made the viewpoint and art policy about environment cooperate as the method of inter-regional association, were proposed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目： 芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般
キーワード：芸術・文化政策、地域連携、美術連携、国際交流、美術館、アートセンター、NPO、美術教育、環境教育

1．研究開始当初の背景

(1)地方都市における地域文化施設と大学を中心とした教育機関との美術による地域連携に関しては鑑賞教育やワークショップなど各地で積極的に進められている。こういった結びつきは必ずしも大学などの教育機関だけでなく地域文化施設の双方向の協力体勢が求められることが望ましいが、各地域文化施設の性格により協力方法に違いが生じてくる。本研究における地域文化施設とは研究代表者が所属する研究機関のある山口県の場合以下の7つの種類の施設に分類される。①山口県下の美術館（山口県立美術館、下関市立美術館等）②アートセンター（秋吉台国際芸術村、山口情報芸術センター等）③伝統芸術総合センター（山口ふるさと伝承総合センター等）④山口県下の博物館（山口県立山口博物館、秋吉台科学博物館等）⑤市民を中心にして街の中で展開するアートイベント、および拡張型の美術館や博物館（アートふる山口等）⑥山口市における美術・教育関連の団体(山口現代芸術研究所、山口県造形教育研究会等)⑦山口県下の小・中・高等学校および、大学、専門学校等。

(2)上記の７つの機関はそれぞれ独立した機関として専門的な目標の達成を求めるため活動しているが、他機関と相互連携を行う必要は必ずしも無い。しかし地域社会の活性化のためには相互に連携した事業を行うことで地域の発展に資することができる可能性を秘めている。

２．研究の目的

本研究の目的は、各領域に分かれている地域文化施設の美術連携プランの開発を通して相互の機能を実践的に検証し、関係者の人的交流や美術・教育資源の共有化が地域社会の文化環境形成とその向上に及ぼす影響を分析することである。具体的には山口県下の後述の先端芸術（メディアアートを含む）から伝統芸術までの広い分野を視野に入れた、地域文化施設と研究代表者の所属する山口大学との緩やかな連携協力体制を組織して、鑑賞教育実践や横断領域的な展覧会、参加型ワークショップ、教材開発、シンポジウムなどを行う。さらに山口市および近隣地域における芸術文化の環境形成の観点から連携内容や協力体制の有効性、影響を検証する。これらを基にして地域社会における芸術的教養の底上げをはかることにより地域の文化的活性化に寄与するために、芸術文化の環境を支える地域文化施設の連携協力のモデルを提示する。

３．研究の方法

本研究の研究組織は研究代表者（中野良寿）と研究分担者（福田隆眞、上原一明）と連携研究者（菊屋吉生、安原雅之）、研究協力者（岡本正康）によって進められる。研究分担者、連携協力者は山口大学および愛知県立芸術大学の研究、教育者として高い能力を有しており、研究協力者も下関市立美術館の学芸員をはじめ美術作品に見識が高く連携事業の企画・立案・運営についての豊富な実績を持つ表現者および研究者たちである。本研究を遂行する上でこれらの研究者と国内外の各地域文化施設の学芸員、関係者と聞き取り調査を行い、実践的な美術連携のプランおよび、モデルの開発・実践を行った。

４．研究成果

(1) カナダでの事例研究について

2010年の９月にバンクーバーおよびバンクーバー近郊の地方都市であるケロウナで調査を行った。訪問地個別の詳細は以下である。①バンクーバー：a, カフェ・フォー・コンテンポラリー・アート、b, プレゼンテーション・ハウス・アーツ・センター、c, ブリティ

ッシュ・コロンビア大学人類学博物館、d,バンクーバー・アート・ギャラリー、e,ディープ・コーヴにおける討論会 ②ケロウナ：a,ケロウナ・アート・ギャラリー、b,ブリティッシュ・コロンビア大学オカナガン校、c,ウッド・ヘヴーン

上記の西海岸沿いのカナダの都市において、バンクーバーの人口は200万人を超える大都市であるが、ケロウナの人口は 16 万人ほどで、広域合併後に人口約 19 万人になった山口市とおよそ同程度の人口規模と考えられる。ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館ではカナダの文化戦略として先住民の文化を再考する方向にあることや、多様性を重視した文化における政治的な正しさの意識喚起を博物館やギャラリーが行っており、積極的にワークシートを作り、地元の小・中・高等学校の教師を招いて鑑賞教育等を通じて浸透を諮っている。パブリックアートの設置をめぐり行政が開いた公聴会など制作者と作品を受け入れるはずの住民との齟齬など、日本においても文化行政が抱える問題点を再認識することができた。パブリックアートの抱える問題点を上手に回避しようとしている事例として、森林公園の中でワークショップや散歩、音やパフォーマンスといったイベントを定期的におこなう、大学と地域のアーティストが連携したウッド・ヘーブンの事例は特筆すべきものであった。

○ 調査同行者：中野良寿、福田隆眞、上原一明、安原雅之

(2)イギリスでの事例研究について

2011 年度の国外での調査活動として、イギリスのロンドン、エジンバラ、オークニー諸島の三箇所で調査を行った。①ロンドン：a,テート・ギャラリー(グリーン部門)、b,アーティスト・スタジオ ACAVA ②エジンバラ：a,エジンバラ・カレッジ・オブ・アート(ECA) ③オークニー諸島：a,ピア・アート・センター、b、ヨーロピアン・マリーン・センター(EMEC)

上記の場所では地域の活性化のためにそれぞれの機関が貢献するとともに、諸機関が従来のカテゴリーから少しずつ逸脱することにより、異業種間の連携関係を構築している現状があった。特に、オークニー諸島のピア・アートセンターでは ECA のスタッフや学生が毎年ワークショップなどで滞在しており、潮流発電の研究所(EMEC)などや地域の産業、環境に影響をうけたアートプログラムなどを行っており、地域連携のあり方としての好例であった。

2012年度の研究活動について国外では10月28 日から 11 月 2 日まで英国のエジンバラ市にあるエジンバラ美術大学(ECA)で行われた、美術連携事業を含むランドスケープなどをテーマにしたシンポジウムに研究代表者の中野が参加した。本シンポジウムで中野は地域社会における美術連携事業による活性化案の提案として、山口県の県央部に位置する美祢市にある秋吉台国際芸術村を起点にして、カルスト台地の保全や観察、グリーン・ツーリズムを促し、且つ自然に負荷の少ない展望台などの再開発の提案などを行い、地域における美術による活性化の可能性のモデルを提示した（このプランは後述のノルウェーにおける「ナショナル・ツーリスト・ルート」に強く影響を受けたものでもある）。

このシンポジウムは ECA のアート・スペース＆ネイチャー(ASN)のコースが主催して各方面からの講師を招くもので、日本からは中野の他に愛知県立芸術大学の水津教授、井出教授の一行が参加しており、ランドスケープ・デザインの観点でノルウェーの「ナショナル・ツーリスト・ルート」を調査した発表や、ワークショップを通じて地域住民との共

同制作で作品を作り上げるプロジェクトなどが紹介された。またノルウェーから「ナショナル・ツーリスト・ルート」の設計・建築に関わった建築家の一人であるラース氏からのプレゼンテーションがあり、デザインと環境保護の両面をうまくいかした環境に負荷の少ない建築デザインの具体例も発表された。

○ 調査同行者：中野良寿、安原雅之(2011年のみ)

(3)国内での事例研究について

2011年の国内調査では3月に金沢21世紀美術館での美術連携事例(一年間継続するアーティスト・イン・レジデンスである金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム等)の調査および、東京の 3331 アーツ千代田における「つくることが生きること」 東日本大震災復興支援プロジェクト展 等の調査を行った。2012年度の国内では12月に山口市で行われた環境をテーマにしたシンポジウムおよび展覧会等を、村山修二郎氏を講師に山口現代藝術研究所(YICA)と共同で行った。3 月には地域、美術連携事業を実践する直島を中心とした瀬戸内芸術祭の視察、東京都美術館、東京国立近代美術館などの美術連携事例の視察と学芸員からの聞き取り調査等を行った。以上、美術連携による地域活性化の事例として環境を取り込んだモデル化の一端を掴んだ。簡単にまとめられるテーマではないが、今後も研究内容を深めて汎用可能なモデル化および具体的な地域への提案に変えて行きたい。

○ 調査同行者：中野良寿、福田隆眞、上原一明(2011 年のみ)、岡本正康(2011 年のみ)、菊屋吉生(2012年のみ)

(4)地域の諸機関の橋渡しになる活動として NPO 法人山口現代藝術研究所（YICA）を中心にシンポジウムおよびワークショップを行った。シンポジウムについては2010年10月に群馬県を拠点に活動するコンセプトスペースおよび AIS の美術作家を招聘、「日本におけるコンセプチュアルアートの展開」と題したシンポジウムおよび小品展を山口情報芸術センタースタジオ C で行った。同年 11月には連携協力者の菊屋吉生がパネラーの一人であるシンポジウム「アーキペラゴ　海を渡る」が秋吉台国際芸術村で行われた。フィールドワ-カーとしてエジンバラのパトリック・ゲデス、宮本常一、雪舟に注目した特徴のある企画に多方面からの参加者を集めた。2013年2月には山口情報芸術センタースタジオCで「山口盆地考環境とアート」と題したシンポジウムを行った。研究代表者の中野は6人のパネリストの一人で、その他のパネリストは山口情報芸術センター、山口県立美術館、秋吉台国際芸術村、山口大学、山口現代藝術研究所からそれぞれ数名が加わった。山口盆地という山口市の地形的特色をテーマにして、その地域における代表的美術機関が集り、地域や文化の将来的な発展を議論する場となった。また、2012 年 12 月には神奈川県から植物をテーマに活動する美術家である前述の村山修二郎氏を招聘してアーティスト・イン・木町ハウスという滞在制作および、作品発表、ワークショップを山口現代藝術研究所と共同で行った。

○研究代表者の中野は山口現代芸術研究所（YICA）の構成員である。

(5)秋吉台での連携モデルプランについて

2012 年にスコットランドのエジンバラ芸術大学(ECA)で行ったシンポジウムやブルガリアで行われた国際カルスト会議で中野が提案したモデルプラン。山口県美祢市のカルスト台地をテーマに、展望台や既に存在している老朽化したカスルト台地の付帯施設を新

たに現代美術やランドスケープ・デザイン、建築、環境学の視点で改修を行うというプラン。これは秋吉台国際芸術村と秋吉台科学博物館が連携し、また地元の地方公共団体である美祢市が協力して進める必要がある。具体的には現在構想中の段階であるが、これは環境保全および観察のために美術的なセンスを応用するものであり、昭和 30-40 年代に確立された手垢の着いたツーリズムのありかたを一新するものである。本物の自然の姿を美しく保全するため、デザインとしての観点や仮設的な作風に特徴のある現代美術の応用例としても構想しており、美術連携による地域活性化のモデル案として考えている。

(6)まとめ

本研究の二年目に東日本大震災、福島第一原子力発電所事故が起こり、日本においては環境保全に関する意見が飛躍的に叫ばれるようになった。当研究にも少なからずこの問題は影響を与えた。二年目からは意識的に美術連携や地域活性化のためのキーワードとして“環境”の要素を考慮に入れて調査を行ってきた。

国内外を問わず、エネルギー問題に代表される環境に関する問題は美術連携や地域の発展にも直接・間接的に影響を与えているケースがあった。調査の流れとしてはこれらの環境に関する要素を積極的に取り入れて、美術連携や地域活性化を行うことが今後の社会の健全な発展に寄与するのではなかと考える。前述の秋吉台のカルスト台地で付帯施設を再開発するモデルに関するアイデアは各地の事例を調査するなかで生まれた。このプランの具体化にはまだ時間と今後の調査活動が必要であるが、今後もこのプランを美術連携による地域活性化のモデル案として実現に向けた活動を続けていこうと思う。

最後に地域連携を行う際の注意点として、大学関係者の主導で地域の美術機関に働きかける場合、権威主義に陥らないよう市民の意見を反映しながら行う必要あること付け加えたい。組織の思惑にあまり影響されない NPO 法人などの活動は可塑性のある地域社会の活性化には今後も必要な組織形態のひとつであるといえるだろう。今後は公的な組織間の媒体となるボランティアやメディエーターなどの様々な活動にも注目して行きたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

①中野良寿
イギリスにおける美術による地域活性化の事例について
山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、
第 35 号, 2013, pp. 51-58

②福田隆眞
バンクーバー美術館における美術教員研修の事例 エミリー・カーと 4 人の芸術家の事例
山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、
第 33 号, 2012, pp. 35-44

③福田隆眞, 中野良寿と調査研究
カナダ・ケロウナ・アート・ギャラリーにおける美術教育プログラムの一例
山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、第 31 号、2011, pp. 49-58

④上原一明
ビル・リードと先住民芸術の再評価
山口大学教育学部研究論叢(第 3 部)学内

刊行物(紀要等)、査読無、61巻、2011, pp. 31-35
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/yunoca/handle/C010061000304

⑤中野良寿、安原雅之と調査研究
カナダにおける美術連携事業の調査研究
-バンクーバーおよびケロウナ(ブリティッシュ・コロンビア州)の事例報告-
山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、第31号、2011, pp. 119-130

〔学会発表〕(計4件)

①中野良寿
山口盆地考 環境とアート(シンポジウム)、山口現代藝術研究所、山口情報芸術センター(招待講演), 2013年02月28日, 山口情報芸術センタースタジオC(山口市)

②中野良寿
A consideration about the local revitalization with the art of the observatory in a karst plaeteau Akiyoshi, エジンバラ芸術大学(ECA) Art Space and Nature(ASN) (招待講演), 2012年10月30日, エジンバラ芸術大学, イギリス

③中野良寿
A consideration about the picture of Japanese children on the theme of Karst pleateau Akiyoshi, The "PROTECTED KARST territories-MONITORINGAND MANAGEMENT" conference (招待講演), 2012年09月19日, Shumen Hotel, Bulgaria

④中野良寿
A consideration about the local revitalization with the art of the observatory in a karst plaeteau Akiyoshi, The "PROTECTED KARST territories-MONITORING AND MANAGEMENT" conference (招待講演), 2012年09月19日, Shumen Hotel, Bulgaria

〔その他〕
山口現代藝術研究所公式HP,
http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~okutsu/YICA/Home.html

６．研究組織

(1)研究代表者
中野良寿 (NAKANO YOSHIHISA)
山口大学・教育学部・准教授
研究者番号：30335781

(2)研究分担者
福田隆眞 (FUKUDA TAKAMASA)
山口大学・教育学部・教授
研究者番号：00142761

上原一明 (UEHARA KAZUAKI)
山口大学・教育学部・准教授
研究者番号：40265038

(3)連携研究者
菊屋吉生(KIKUYA YOSHIO)
山口大学・教育学部・教授
研究者番号：60294617

安原雅之(YASUHARA MASAYUKI)
愛知県立芸術大学・音楽学部・准教授
研究者番号：30314785

(4)研究協力者
岡本正康 (OKAMOTO MASAYASU)
下関市立美術館・学芸員